

いわてのサロンに お菓子1年分を贈呈

コープかがわは、5月よりいわて生協のふれあいサロンに毎月500人分のお菓子を贈呈する取り組みを始めました。今後、四国4県持ち回りで毎月お菓子の贈呈を行なっていきます。



お菓子にメッセージをつけて、岩手に送った。

コープかがわ理事長・組合員代表が4月にいわて生協や陸前高田の市役所を訪問しました。参加者の1人は、「実際に被災地に行かなければ分からないことが多くありました。ふれあいサロンでお菓子が必要とされているということもその一つです」と話します。

この参加者の報告を受け、コープかがわでは、人びとがつながるきっかけ

となるよう、ふれあいサロンで使用するお菓子500人分を5月より贈ることに決めました。

5月25日には、コープかがわの役員・組合員理事が岩手県を訪問。大槌町で開催されたふれあいサロン3カ所にお菓子とメッセージカードを届け、地域の方と一緒にスカーフ作りなどを行ないました。

このコープかがわの取り組みが四国全体の生協に伝わり、今後は四国4県で、毎月各県順番に、500人分ずつお菓子を贈る取り組みへと広がっています。



地元、香川のお菓子（せんべい、和三盆など）が送られた。

「協同の力をあらためて 感じる事ができました」

5月26日、京都生協、大阪いずみ市民生協、そして鳥取県畜産農協によるボランティア隊が、合同で宮城県登米市の仮設住宅と南三陸町志津川の漁港で支援活動を実施しました。



炊き出しでは、仮設住宅にお住まいの方とたくさんお話をすることができた。

京都生協と大阪いずみ市民生協は、「被災地生協に代わって被災地生協の産直先の支援を」という思いで震災直後から支援を行ない、現在も継続して活動しています。5月26日に行なわれた取り組みでは、炊き出しとカキ養殖用のイカダを固定するための土のう作りを行ないました。南三陸町・志津川でのボランティア活動は、京都生協

は今回で6回目、大阪いずみ市民生協は4回目です。

登米市仮設住宅自治会長の宮川安正さんは、「自立して頑張るために、皆さんの支援は本当にありがたいです。仮設住宅では、350戸の皆が一つ屋根の下で暮らす家族だと思っています。志津川に帰れるまで、皆で励まし合って頑張って生きていきたいです」と話していました。

京都生協・商品政策室地産地消推進チーフの福永晋介さんは、「一人の力は小さいけれど、それが集まると大きくなる。生協として、そのつながりを作り続けたい」と話していました。

また、大阪いずみ市民生協のメンバーは、翌日27日は岩手県大船渡市に移動し、コープあいちと共に支援活動を行ないました。